

出水市 思春期保健事業

～ありのまま 強くしなやか 学童思春期～



出水市役所 健康増進課

(保健センター)

目 次

1. 思春期保健事業を始めるにあたって	1
2. 思春期保健事業の位置づけ	2
3. 実施風景と生徒の声	
①助産師講話～生命誕生と命の大切さ～	4
②妊婦さんの体験談	5
③妊婦体験	6
④赤ちゃん・産婦さんとのふれあい体験	7
4. ボランティア（妊産婦）さんの声	
①妊婦さん	8
②産婦さん	9
5. スタッフの声・思い	
①助産師の声	11
②保健師の思い	12
6. 思春期保健事業に取り組んで	13
7. 資料	
出前講座実績	(資料1) 14
【命の教育推進事業・思春期健康教育事業】の活用	(資料2-1) 15
	(資料2-2) 16

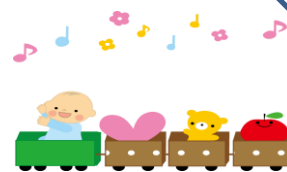


1. 思春期保健事業を始めるにあたって

出水市では、平成22年度頃から10代の出産割合が、全国や県と比較して高い傾向にあります。全国的にも低年齢での出産は虐待につながる可能性が高いと言われており、その背景には、母親が子どもと関わるのが苦手であったり子育ての支援者がいないという状況があります。また、近年、母親自身が子供時代にしっかりと関わってもらった経験に乏しいことから自分の子どもにどう接してよいのかわからない、さらに自尊感情も低いという状況もあります。このことは、望まない妊娠や予期しない妊娠をしてしまう要因にもなり得ます。

このようなことから、10代の若い頃から妊娠・出産について正しい知識を得、命の大切さを感じ、自己肯定感を育んでもらうためにも、思春期保健事業の必要性を感じました。しかし、保健センター単独の活動では、思春期の子どもたちへ十分に伝えることは難しいと考え、教育委員会をはじめとして、学校長・養護教諭などの学校関係者との連携を図りながら、平成27年度から思春期健康教育事業として市内の全中学1年生を対象に学校の教育課程の中に組み入れていただき開始することとなりました。

思春期保健事業のあゆみ



平成25年度 出前講座実施（小中学校）

平成26年度

8月 市内の中学校校長会において思春期保健事業について説明

10月 養護教諭部会において思春期保健事業について説明

11月 思春期保健事業開始（実施可能な中学校へ実施）

スタッフとして助産師も加わる

ボランティアとして妊婦さん・産婦さん・乳児が加わる

平成27年度の日程調整を教育委員会で取りまとめ

平成27年度～

市内中学1年生へ体験を含めた授業開始（中学校7校実施）

テーマ：「命を感じ、考える」

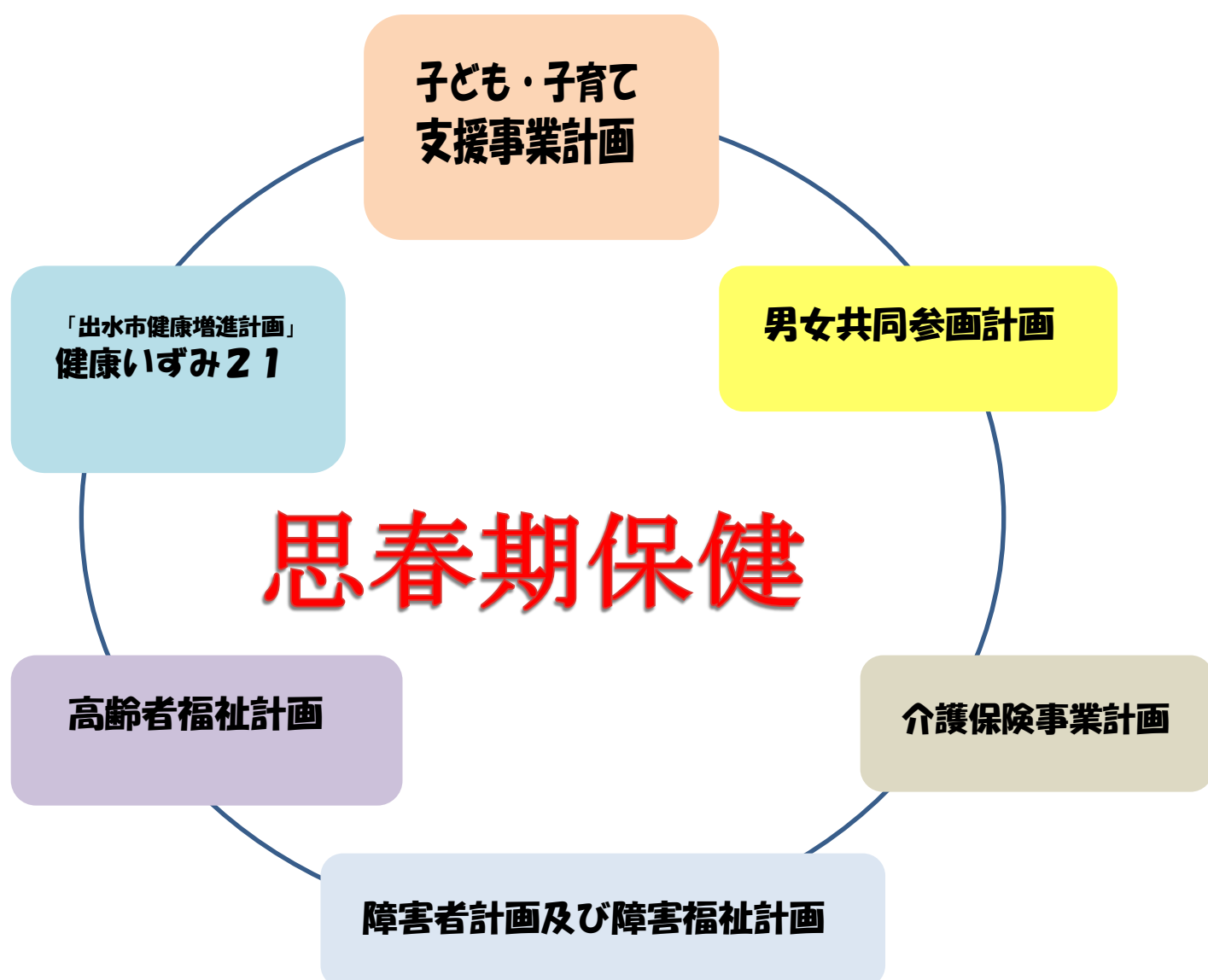
～妊産婦・乳児とのふれあいを通して～

※平成25年度から実施していた出前講座は、小学校・中学校・高校並びに保護者に対して現在も引き続き実施（資料参照）

2. 思春期保健事業の位置づけ

出水市では、すべての市民が健康に関心を持ち、積極的に健康づくりに取り組み、また、地域全体で支援する体制づくりを展開するため、乳幼児期から高齢期のライフステージ毎に目指す姿を掲げた出水市健康増進計画「健康いずみ21」を策定しています。

その中で、次世代を担う子ども達には、「ありのまま強くしなやかな学童思春期」を過ごして欲しいと各関係機関と連携を図りながら、思春期保健事業に取り組んでいます。



健康いずみ 2 1 (第2次) におけるみんなで目指す健康像

目指す姿：思いやりと温かさがはぐくむ健康・福祉のまちづくり

ライフステージごとの目指す姿



3. 実施風景と生徒の声

① 助産師講話～生命誕生と命の大切さ～



子どもを産むことがこんなに難しいことだなんて思っていなかったので、産まれてきたことがとても奇跡だと思いました。



一人一人の命は、母親と父親の二人の間で奇跡的に出会った命なんだなと思いました。

自分も赤ちゃんができたなら大切にしたいし、自分を産んでくれた親に感謝して、死にたくなっても、自分は選ばれて産まれてきたことを思い出して、思いとどまって生きていこうと思いました。

妊娠ってすごいんだなと思いました。赤ちゃんが産まれる確率もすごく低いんだなと思いました。

ひいばあちゃんやひいじいちゃんやその前の先祖から命はずっと受け継がれているんだなと思い感動しました。自分で自分の命を絶つのはものすごく悲しいことなんだなと思いました。僕も将来、大人になって命を引き継いでいきたいです。



今回の授業を通して思ったことは、自分が産まれたことは奇跡で、そんな幸せな生まれ方をしたのに自分で命を絶つことはしちゃいけないということです。どうやって自分たちが誕生したのかわかりました。



② 妊婦さんの体験談



「妊娠」「出産」の苦しきなど、お母さんがどんな思いで私を産んでくれたのかを知ることができました。私は、お母さんみたいに命がけで出産したいです。



女子生徒の声

今の私はたくさんの人や家族に支えられながら、見守られている中にあるんだなと思いました。



僕の母も僕を産むときは大変だったと言っていたので、僕も奥さんができたらしっかりサポートしていきたいです。



- ・ 男なんだから妊娠なんて関係ないと思っていたけど、話を聞いていたら、男の僕でもしっかりしないといけないと思いました。
- ・ 妊娠しているお母さんたちは行動範囲が狭くなるのがよくわかりました。結婚して奥さんが妊娠したら、奥さんに無理させないようにしようと思いました。
- ・ 妊娠している人を初めて見ました。

男子生徒の声



子どもができた時、赤ちゃんが産まれた時の喜びは本当に大きいんだなということを学びました。反抗してばかりだけど、今日の授業を通して産んでくれた母に、育ててくれた父に、面倒をみてくれた祖父母、いとこ、おじ、おば、地域の人やたくさんの人に感謝したいと思いました。



③ 妊婦体験



妊婦さんの大変さがわかりました。親に感謝したいです。妊婦さんを見かけたら、手伝ってあげたりしようと思いました。



妊婦ジャケットを着て、普段できることが全然できず、妊婦さんの大変さがわかりました。



妊婦体験を受けて、妊娠は大変だなと思いました。母に感謝したいです。



妊婦ジャケット6～7kg



- 女性の方は妊娠すると何をするのも大変なんだなと思いました。もし、将来、結婚して子どもができたならあまり動かさないうで、家事などいろいろなことをしていきたいと思いました。
- 生まれる前の赤ちゃんが入ったおなかには、7～8kgもの重量があることや、出産までの経過など、色々なことを学びました。これからも、女性を傷つけないように努力していきたいです。
- 妊娠している人の大変さが分かりました。僕がもし結婚したら、これを教えてあげたいです。

④ 赤ちゃん・産婦さんとのふれあい体験



出産までの大変さ、出産した後のうれしさなどが分かりました。命はとても大切で、親に感謝します。



- 命って本当に大切なんだと改めて実感しました。自分が産まれるまでのお母さんの大変さ、産まれてからのうれしさなど知ることができました。男性と女性のからだの違いも改めて知りました。
- 子どもと触れ合って、子どもはかわいくて、やはり癒されるものだということがわかりました。
- 赤ちゃんはとてもかわいいし、とっても弱いなと思いました。赤ちゃんを産むことはとても大変だけど、赤ちゃんに会えた時のうれしさと感動を味わってみたいです。
- 産婦さん達のお話を聞いて、母にはたくさんの感謝を伝えないといけないと考えさせられました。

- 1歳の子と触れ合い、もっと子どもが好きになりました。
- 赤ちゃんの模型を実際に抱きました。抱いてみると、思っていた以上に重かったです。あの重さがおなかの中にいると思ったら、改めて母親の偉大さのようなものを感じました。
- 命の大切さを知りました。自分の命は自分だけのものじゃないので、大切にします。
- 大人になるまでに成長を見守る親は、とても大変なのだとわかりました。
- 久々に赤ちゃんに触れ合うことができ、とても楽しかったです。自分にもあんな時期があったんだと思うと、少し懐かしくなりました。赤ちゃんがとてもかわいかったです。
- 「親は自分の子どもが一番かわいいですか」と産婦さんへ質問したら、「そうですね」と答えてくれたので、自分もそうやって大切に育てられたんだとうれしく思いました。
- 一人一人色々なことがあり、すごいと思いました。
- 命は色々な奇跡が重なっているんだと思いました。



4. ボランティアさん (妊産婦) の声

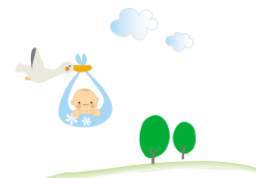
① 妊婦さん



1) 参加しての意見・感想

- ・ 参加したことによって自分もまた命について考える良い機会になりました。
- ・ 私達の時代には無かった「思春期教育」。この時代ならではの授業。参加させて頂き、とても有り難かったです。その反面、たった1日のこの時間、この出会いに、何かひとつでも一人でも心に残るものがあればいいなと考えると、何を語ってよいものか悩んだのも事実でした。自分が体験したことが全てではないですが、子どもたちの為になるのであればこれからも参加させていただきたいなと毎日思いが募る事でした。
- ・ 驚きや喜びがこちらに伝わってきて、嬉しく思いました。感想文を見せていただけると思っていなかったのが、拝見できて良かったです。私が中学生の時に受けた教育は、教科書を読むだけで、こういった体験がなく、なかなかイメージしづらかったです。このような体験ができる生徒さんをうらやましく思いました。

2) 生徒の様子や反応について



- ・ お腹を触るとうれしそうにする生徒もいました。(男女共に)
- ・ 赤ちゃんのエコー写真を見せるとびっくりしていました。
- ・ 男子は、恥ずかしそうにしていたが、興味津々でした。
- ・ 思春期という多感な時期なだけあって大勢の前では、反応が薄いなと思いましたが、個別に私の所に寄ってきて、お腹をさわったり、質問をしてきたりした時は少しでも妊婦さんに興味をもってきているんだなと嬉しく感じました。
- ・ とても素直にまっすぐな視線で話を聞いてくれました。反応がよかったので、とても話しやすかったです。子どもは皆可愛いです。
- ・ 生徒が話をよく聞いていました。
- ・ 恐る恐る赤ちゃんがいるお腹を触って、子ども達がビックリしていました。

② 産婦さん



1) 参加しての意見・感想

- ・ 毎日、家事・育児に追われていて、自分がしている育児や子どもに対する思いを、ゆっくり考える時間がなかったけど、アンケートを通して自分の気持ちを考え直す良い機会になりました。
- ・ お父さんへのインタビューは、父の気持ちを普段聞くことができないので、本当の気持ちを知れて良かったです。
- ・ 自分の話、体験談が生徒に伝わるか不安だったけど、感想を見て少しでも何かを考えてもらえていたので嬉しかったです。
- ・ 私も初めての経験で何を話したり、何を持っていったら興味を引き出せるかが分からず、不十分な面もたくさんありました。3人目を出産して、また、体験できたこともあったので、機会があればまたお話できたらなと思います。
- ・ 前もって質問内容を考えてきていたのですが、人前で読むのは緊張しました。人数が多いとすごく緊張しました。妊婦さんやお母さんの気持ちや体調のことなど少しでも理解してくれたら嬉しいです。
- ・ 生徒さん達が真剣に聞いてくれて、とても話しやすかったです。娘に対して皆さんが温かく接してくださり、とても嬉しかったです。このような機会をいただきありがとうございます。毎日の子育てを振り返ることがなかなかできなかったのもので、参加させていただき、良い経験になりました。今後もこのような取り組みを続けていただきたいです。
- ・ 中学1年生が、妊娠、出産などについて、どのような印象をもっているのか興味があったので、楽しみに待って参加できました。普段、中学生と触れ合うことがないので良い体験でした。命について考えたり、自分や相手の心・体を大切にしようと思えるきっかけになればいいなと思いました。
- ・ 子ども（息子）と参加させていただくということで楽しみもあり、また、緊張もありました。でも、生徒の皆さんが真剣にお話をきいて下さり、良かったです。子ども（息子）が、人見知りというか恐がってしまって、生徒の皆さんと触れ合うことができなくて残念でした。
- ・ 中学生が赤ちゃんに興味津々で、怖がることなく接してくれて、驚きと嬉しさがありました。
- ・ 赤ちゃんにとっては初めての経験で、普段中学生のお兄ちゃんお姉ちゃんと触れ合うことがないので、貴重な体験になりました。
- ・ 中学生だからあまり発言したり、興味はあっても赤ちゃんを触ったりしないのかもなと思っていました。男の子は思っていた感じに近かったですが、女の子たちは、積極的に抱っこしたりして、抱っこも上手でした。赤ちゃんも帰ってからぐっすり眠っていました。赤ちゃんにもいい経験でした。

2) 生徒の様子や反応について



- 小さい子どもと触れ合う機会のない子は、戸惑っていたようでした。
- 中学生の皆さんの前でお話するとのことだったので、はじめは思春期の難しい時期で、あまり真面目に聞いてくれる方は少ないかもしれないと思っていましたが、杞憂でした。皆さん真剣で、素直で、まっすぐ受け止めてくださっているようでした。
- みんなの前で手を挙げて質問するのは、中学1年生ということもあって恥ずかしいのだろうなと思いましたが、私が話していることをきちんと聞いてくれていたので嬉しかったです。(私があまりお腹が目立たない時期だったので、”妊婦”というイメージはつきにくかったかもしれません。)一緒に連れて行った上の子(1歳)にみんな集まってきていたので、こんな小さな子どもに興味があるんだなと驚きました。
- 真剣に話を聴いて頂き、良かったです。子ども(息子)は、泣いてしまい、生徒の皆さんに抱っこなどさせてあげられなかったのですが、首がすわってなくてグラグラする赤ちゃんの人形を恐る恐る、でも、大切そうな表情で抱っこしているのがすごく良かったです。私も息子が産まれて抱っこしていた時の事を思い出し、子どもの大切さを改めて感じました。
- 思った以上に赤ちゃんを可愛がってくれたり、興味を持ってくれるのかなと最初は思いましたが、意外にも男子が興味津々だったのがとても印象的でした。

5. スタッフの声・想い

① 助産師の声



♥ 助産師 加治美由起さん

講話の中で、「生命誕生、胎児の成長、出産の映像（DVD）、赤ちゃん時代に抱っこされたこと、大切な命、つながる命（＝二次性徴とは）」という内容でお話ししました。生徒たちの受けとめ方、感じ方はそれぞれ違うと思います。しかし、「自分の命は0.1mmだった」「命は大切だと思った」など生徒たちの感想を見て、自分の命を改めて見つめる・感じる機会であり、また、妊産婦・赤ちゃんとのふれあいを通して、将来子育てに関する貴重な予備体験になり得たであろうと思いました。照れながらも妊婦体験したり、赤ちゃんに触れたりする生徒たちの反応はとてもほほえましかったです。学校の授業では、なかなか体験できない分野なので、市の事業として（外部より）出前授業という形は、とても良いです。そして、中学1年生へ二次性徴期に命が始まる“性”という価値観を与えることで、自分の心身の変化を受容したり、正しい性行動や正しい性情報など（予期せぬ妊娠、感染症、デートDVなど）受けとめる準備段階として意義あることだと確信しています。

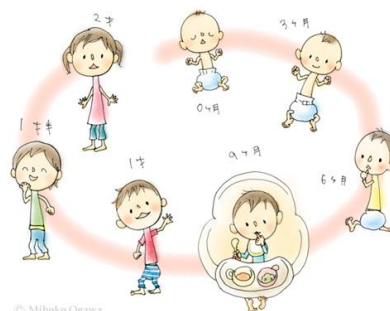
今後も出水市の全中学生が思春期教育を受けられるよう出前講座を継続させてほしいです。とても、有意義な事業です。

♥ 助産師 白男川裕子さん

指導者が一方的に話す以上に、実際の妊婦さん、産婦さんの生の感想、意見を伝えることはとても良いと思います。子供達に伝わる効果が大きいと思いました。また、体験を中心にした内容も、とても良いと思いました。

講話については、少人数の学校の方が話しやすかったです。一人ひとりと会話しているような雰囲気になると良いなと思いました。どうしても、こちらから一方的に話してしまっているようなので、考えてもらったり、意見を言ってもらったり、一つの問題を皆で考えられるような形もよいのではないかと思います。

赤ちゃんの抱っこ体験は生徒たちの目の輝きが違い、理屈抜きで、命の素晴らしさを実感でき、生徒たちに抱かれる我が子を見るお母さんの笑顔がとても良かったです。



© Mihoko Ogawa

② 保健師の思い

- 自分が生まれてきたことが奇跡の連続であることを学ぶことで、まずは、自分の命を大切にしてほしいという思いが伝わっているのかなと思います。
- 赤ちゃんの誕生について、助産師から話があった時の子どもたちの目は、真剣で、自分がどのように生まれてきたのか？ということに関して興味・関心を持ってもらっているとわかり嬉しく思いました。
- 赤ちゃんや産婦さんとのふれあい体験のコーナーに分かれた時、産婦さんへのインタビュー（お父さんへのインタビュー）を生徒さんに読んでもらって質問していきました。やりとりをしている感があり、良かったと思います。
- 授業当日の子ども達の表情や会話等の反応や後日の感想文等を見ると、学習の中で知識として得た生命の誕生やその奇跡、命の尊さが、講話や体験を通してより実感されているなど感じます。
- 生徒の表情がとても輝いて、わくわくした表情で赤ちゃんの抱っこなどの体験をしていたことが印象的でした。命が誕生する神秘、望まれて生まれてきたんだよ…というメッセージを伝えるだけでなく、自分たち（生徒）はこれからの“命”（人の命も）を大切にするために、どうすべきかということを考えられるような内容をさらに充実していく必要があるのかなと思います。
- 中学1年生で奇跡的な命の誕生や妊産婦さんや赤ちゃんとの交流から、両親への感謝の気持ちを感想に書く生徒が多いので、今後学校で、「両親への手紙」など子から親へ気持ちを伝える機会を作っても良いのではないかと思います。
- 最初は、妊産婦さんにお話しを伺うことは、とても負担が大きく、申し訳ないなという気持ちが大きかったですが、妊婦さんも産婦さんも、とても丁寧に準備してくれて、子どもたちに伝えてくれました。自分の地域の学校に行くことができ良かった、楽しかったと言って下さる方もいたので、もっと、地域に事業が広まって、学校に行きたいと思ってくれるボランティア（妊産婦）さんが増え、事業を継続していけたら良いと思います。
- 全学校で、養護教諭にも入ってもらえたら、他の連携もうまくいくのではないかと思います。
- 「こころの健康」「コミュニケーション」「人との関わり方」等について出前講座をした際、対人面での悩みや死を意識した事等の感想がありました。今後は、「こころの病」等も入れたり、また、その後のフォローとして学校とさらに連携を図っていきたいと思います。
- これから先、「生」や「性」について実際に自分の身に起こることを知った上で、自分の命やまわりの命を大切にすることはどういうことなのか、子どもたちだけではなく、私自身も寄り添って一緒に考えられる機会があれば良いなと思います。



6. 思春期保健事業に取り組んで

出水市では、学校教育の教育課程の中で思春期保健業として「命を感じ、考える」というテーマで、助産師による講話と赤ちゃん・妊産婦さんとのふれあい体験を実施しました。生徒の皆さんは、助産師からは、「命の誕生」について、自分が奇跡の連続で産まれてきていること、その命を守るために多くの人から愛されて育てられていることなどを聴き、妊産婦さんからは、命を授かった日から今に至るまでの想いを聴くことができました。そのことから、両親等の周囲の人への感謝の想いを抱いたり、命の大切さを再認識することができたようでした。

また、赤ちゃんとのふれあいの中では、目を輝かせて、人との関わり大切さや温もりを感じていたように思います。自分や周りの人を大切にしていきたいという思いや未来に自分が母親・父親となったときのイメージを持つ機会となったようで、この事業を実施して良かったという思いと事業継続の必要性を強く感じています。

今後は、課題としている望まない妊娠の減少や健やかな身体づくり、性感染症の予防などについても思春期出前講座等を通し、充実を図っていきたいと思います。また、教育機関からの協力を得ながら、家庭・地域等との連携を図り、より一層事業の充実に努めていきたいと思います。

7. 資 料

①思春期出前講座実績



資料 1

平成 25 年度

テ	一	マ	学 校 名	対 象	人 数
いのちの大切さ			大川内小学校	全生徒	28
思春期のわが子と向き合おう			切通小学校	保護者	20
命の大切さを育む親子のふれあい			江内小学校	保護者	60
子どもの健康と望ましい生活習慣			大川内小学校	保護者	19
妊娠の成り立ち、妊婦体験			米ノ津中学校	1 年生	129
胎児の成長及び乳児の成長、抱っこ体験			米ノ津中学校	2 年生	131
感染症について			荘中学校	保護者	21
性感染症について			高尾野中学校	3 年生	114
妊婦体験、抱っこ体験			出水養護学校	中学 1 年生	21

平成 26 年度

テ	一	マ	学 校 名	対 象	人 数
命の大切さ			出水小学校	6 年生	69
生活リズムを整えよう			東出水小学校	職員・保護者	40
命の大切さを考えよう			荘小学校	全生徒	48
命の大切さ			蕨島小学校	全生徒	20
妊娠・出産、妊婦体験、抱っこ体験			江内中学校	全生徒	62
妊娠、胎児の成長、妊婦体験			米ノ津中学校	1 年生	128
胎児の成長及び乳児の成長、抱っこ体験			米ノ津中学校	2 年生	117
命の誕生から老い 認知症について			米ノ津中学校	3 年生	122
命に関する講演会			野田中学校	保護者	35
今の自分を大切にすること			大川内中学校	全生徒	8
性感染症			野田女子高校	全生徒	313

平成 27 年度

テ	一	マ	学 校 名	対 象	人 数
命の大切さ			出水小学校	6 年生	48
こどもとメディア			蕨島小学校	学校保健委員会	15
命の大切さを育む親子のふれあい			荘中学校	生徒・保護者	41
未来ある皆さんへ伝えたいこと ～性感染症からマナブ～			高尾野中学校	3 年生	108
性感染症とコミュニケーションの取り方			出水商業高校	1 年生	147
迷える男子と戸惑う女子の性と生			出水工業高校	3 年生	233
性（生）に関する講話			出水商業高校	3 年生	106
育児支援のためにできること			幼稚園教諭	幼稚園教諭	35
こどもとメディア			市内中学校	養護教諭	8

市事業【命の教育推進事業(学校教育課)・思春期健康教育事業(健康増進課)】の活用

資料2-1

学年	関連する教科等の内容				市の事業				
	理科	家庭科	保健・体育科	学級活動	思春期健康教育事業 (健康増進課)	命の教育推進事業 (学校教育課)			
					「命の教育」出前授業	いずみ宝子 「命」のサミット	「命の教育」講演会等	「夢の教室」	
小1				○心身ともに健康で安全な生活態度 (★性に関する指導含む)	★ (希望校)	年一回以上開催 (開催方法や対象学年については学校裁量)	◎ (全学級)		
小2									
小3	○昆虫と植物 ○身近な自然の観察								
小4	☆人の体のつくりと運動 ○季節と生物		☆育ちゆく体とわたし						
小5	○植物の発芽、成長、結実 ★動物の誕生	○自分の成長と家族 ○家族や近隣の人々のかかわり	○心の健康						
小6	☆人の体のつくりと働き ○植物の養分と水の通り道 ○生物と環境								
中1	○植物の体のつくりと働き ○植物の仲間 ○生物の観察	☆私の成長と家族	★心身の発達と心の健康(生殖にかかわる機能の成熟)	☆男子、女子・・・同じ？ ちがう？(中学生活と進路)	★ 全学級対象	(内容は一回以上開催) ●3年に一度重点指定校			
中2	☆動物の体のつくりと働き ★生物と細胞 ☆動物の仲間 ☆生物の変遷と進化			☆性被害にあわないように気をつけよう(中学生活と進路)	◎ (全員)				
中3	★生物の成長と殖え方 ★遺伝子の規則性と遺伝子 ○生物と環境	☆幼児の生活と遊び ★幼児とのふれ合い ○これからのわたしと家族	★健康な生活と疾病の予防(エイズ及び性感染症の予防)	○男女が協力する社会 ★性と将来の自分(中学生活と進路)					

「命の教育」に関する講演会（二の矢）

- 1 実施主体： 各学校単位（小学校 14 校、中学校 7 校） **グループ（学校）：補充**
- 2 対象： 各学校の児童生徒及び教職員、保護者等
約 30 人～900 人
- 3 場所： 各学校
- 4 開催時期： 年 1 回～数回
- 5 内容： 各学校単位で、児童生徒を中心に、教職員及び保護者や地域の方々を含めた「命」「生き方」に関する講演会や学習会等を開催する。
 ・ 助産師、保健師等による妊婦体験などを通じた「命の授業」
 ・ 起業家等による「夢の授業」
 ・ 人権擁護委員などによる「人権教育」
 ・ その他の実践家による「命」「生き方」「人権」等に関する講演会
- 6 効果： 学校単位で実施する事で、児童生徒同士、親子、保護者同士、校区民等で共通の話題を持つことができ、学校を中心としたより具体的な取組に発展することが期待できる。また、より身近な単位で、学校を援助し、見守りや相談などの体制充実が図られる。



【課題】

- ・ 「命」「生き方」に関する講話ができる講師の数が、市内近郊では不足しているため、毎年の講師選定が難しく、マンネリ化してしまう。
- ・ 各学校にほぼ均等に予算を振り分けるため、講師の選定が限られてしまう。



【改善策】

- 1 健康増進課の思春期健康教育事業の活用
 内容：①小学 5 年生を対象とした健康教育（保健師講話）
 ・ 新生児モデルの抱っこ体験等を盛り込んだ妊娠の成り立ちと出産
 ②中学 2 年生を対象とした健康教育（保健師、助産師）
 ・ 妊娠について（妊婦ジャケット体験及び妊婦さんへのインタビュー）
 ・ 出産について（赤ちゃんとのふれあい体験） どちらかを選択
 ③保護者対象の思春期の子どもと向き合うための講話
 方法：市内全小・中学校で年 1 回実施
 効果：毎年計画的に実施できる。費用がかからない。
- 2 予算配分重点校を指定しての「命の教育」に関する著名人の派遣
 内容：年ごとに重点校（中学校）を決め、予算を多く配分し、「命の教育」に関する著名な実践家による保護者・地域を含めた「命の教育」講演会の実施をサポートする。
 方法：市内 7 中学校を 3 グループに分け、3 年に 1 回実施
- | | | |
|-------|-------------|----------|
| Aグループ | 米ノ津中、野田中 | 平成 26 年度 |
| Bグループ | 出水中、江内中 | 平成 27 年度 |
| Cグループ | 高尾野中、荘・大川内中 | 平成 28 年度 |
- 効果：重点校を指定し、予算を多く配分することで県外等からも講師を招聘できる。3 グループに分けることで、中学校在学中に一度は話を聞く機会がある。

出水市 思春期保健事業

発行 出水市健康増進課健康増進係（保健センター）

編集 出水市健康増進課健康増進係（保健センター）

〒899 - 0201 鹿児島県出水市緑町50番1号（出水保健センター）

電話 0996（63）2143

発行日 平成29年2月